

平成25年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク

■来賓挨拶：国土交通省港湾局大臣官房技術参事官 大脇 崇

皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました大脇と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、日本海にぎわい・交流海道ネットワーク講演会、この男鹿市でかくも盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。また、日頃より皆様方におかれましては港湾行政に格別のご理解を賜っております。この場をお借りしまして、厚く御礼を申し上げたいと思います。

この日本海にぎわい交流海道ネットワーク講演会、今回で19回目を迎えるというふうに伺っております。これまで港を核とした日本海沿岸地域の連携と交流、こういったものに尽力いただきました会員の皆様方に心から敬意を表する次第でございます。

この日本海沿岸地域、先ほどからもお話ございましたけれども、古くは江戸時代、北前船で人、それから物、あるいは文化情報、こういったものが運ばれるという事で地域相互の交流が盛んに行われてきたところでございます。そういった魅力のある地域、こういった連携のある地域をうまく使って、観光という切り口での観光の地域づくりの施策、こういったものも重要な課題になっております。

今、政府では観光立国実現に向けたアクションプログラムというのを本年6月に策定いたしまして、訪日外国人の旅行者1,000万人の達成、さらにそれを超して2,000万人を目指そうというところで、一生懸命取り組みを進めているところでございます。こうした地域間の連携というもの、こういった観光の推進、こういったものにも非常に大きな効果があるのではないかと考えております。

この男鹿市におかれましても、本年7月、海フェスタおが、これが開催されまして、93万人という大変な来場の方々が来られ、大変盛り上がったというふうに伺っております。この海フェスタの成功も、豊かな自然、文化が根付く男鹿の魅力を広く発信する一助になったのではないかとこのように感じておるところでございます。それからもう一つ、そういった地域間の連携というのは、観光といった切り口以外にも、いざという時の例えば防災といった観点でも役に立つのではないかとこのように思います。それぞれの地域間のことをこういった交流という場を通じて知り合うといったことは、いざという時の広域的な助け合い、防災ネットワーク、こういったものにもうまく機能するのではないかと考えております。そちらの面でも期待をするところでございます。

本日は、作家の石川好先生から、「地域のにぎわいは港から」ということでご講演をいただき、また北前船寄港地フォーラム in 男鹿実行委員長諸井秀樹様からは、「食を通じた地域おこし」ということで事例発表をいただけるように伺っています。楽しみしておりますけれども、そういったお話をいただいた知見もそれぞれの地元で活用いただいて、より良い地域づくり、連携に繋がっていけばと願っているところでございます。

最後になりましたけれども、この講演会の開催にあたりましてご尽力いただきました男鹿市の渡部市長はじめ関係者の皆様方に厚く感謝申し上げます。ご参加の皆様方のご健勝と、本日のこのネットワークの講演会、さらにネットワークの益々の発展を祈念いたしましてご挨拶

とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

